

不安

限りない懐疑だ、限りない羨望だ
この二つが俺の中でじっとにらみ合っている
既に希望は死に絶えた
そして今や憎悪さえもが、がくりと膝を突いた
あの歓喜に紅潮した頬と
あの半開の唇から洩れる喘ぎと
そしてびくりびくりとわななく肢体が
俺の中でかろうじて立っていた全てをひれ伏させてしまった
俺の目の前の、この地獄の嘗みを、一体何と
一体何と呼んだらいいのだ
あらゆる者から力を抜き去るこいつ等を
ああ、俺にはもう何も分からない
ただひとつだけは言える
確かに俺は広大無辺な世界を見下ろしている、と

(1982.6.18)